

【注 意】

当記者発表資料の掲載画像の無断利用や複製はご遠慮ください。

(作品画像の利用を希望される場合は、「広報用画像利用申請書」のご提出をお願いします。)



“やきもの”の
キラ星 九州へ
★

憧れの
特別展 **東洋陶磁**

大阪市立東洋陶磁美術館の至宝
Captivating Form, Timeless Beauty: Masterpieces from the Museum of Oriental Ceramics, Osaka

2023
令和5年

7.11^火 → 9.3^日

開館時間 | 午前9時20分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
 ※休館日・土曜日は午後8時まで特別公開（入館は午後7時30分まで）※夜間特別公開の支店については、HPでご確認ください。
 ※休館日 | 月曜日、7月16日（火）※ただし7月17日（水・祝）、8月14日（月）は開館 ※本展の会期中に展示替えを行います。
 ※観覧料 | 一般1,700円（1,500円）、高学年1,200円（1,100円）、小学生900円（700円）
 ※（ ）内は特別観覧料 ※観覧期間 / 4月18日（火）～7月10日（月）
 ※障がい者等との介護者1名は無料です。展示室入口にて障害者手帳等（詳細は当館ホームページにてご確認ください）



九州国立博物館 | 太宰府天満宮横

T818-0118 福岡県太宰府市石城4-7-8 | www.kyuhaku.jp
 ハローダイヤル 050-5645-8600（午前9時～午後8時/年中無休）

主催＝九州国立博物館・福岡県、大阪市立東洋陶磁美術館、読売新聞社
 共催＝（公財）九州国立博物館振興財団 助成＝（公財）福岡文化財団 特別協力＝太宰府天満宮 後援＝太宰府市、太宰府市商工会、太宰府観光協会、日本工芸会西部支部
 上：重要文化財 青花牡丹唐草文盤（部分）中国・景徳鎮窯 元時代 14世紀 大阪市立東洋陶磁美術館（東郷謙三氏寄贈） 下：国宝 興符織花生 中国・龍泉窯 元時代 14世紀 大阪市立東洋陶磁美術館（任友グループ寄贈/安宅コレクション）
 撮影：六田知弘氏

大阪市立東洋陶磁美術館は、

- ◆ 住友グループ21社から、約972件の「安宅コレクション」の寄贈を受けて、1982年11月に大阪・中之島に開館した
- ◆ 「安宅コレクション」は国宝2件、重要文化財13件を含む、中国と韓国の陶磁器の世界的なコレクション
- ◆ 1999年には李秉昌(イ・ビョンチャン)博士から301件の韓国陶磁と50件の中国陶磁等の寄贈を受けた
- ◆ 以降も東洋陶磁の個人コレクションの寄贈が相次ぎ、現在では質・量ともに世界でも有数の東洋陶磁コレクションを誇る

本展では、大阪市立東洋陶磁美術館の所蔵品のなかから、国宝2件、重要文化財12件を含む、選りすぐりの名品88件をご紹介します。

総出品件数	112件
うち 国宝	3件
重要文化財	19件

※上記は大阪市立東洋陶磁美術館所蔵品を含め、他機関や当館の所蔵品を含めた件数となります。



現在リニューアル工事のため休館中。
令和6年（2024）春頃、再開予定。

いつの時代も…

憧れの東洋陶磁

中国、韓国の陶磁器と日本人が紡いできた長い歴史。
キラ星のごとき東洋陶磁のスター達と、この壮大な物語を辿ります。

☆見どころ☆

- ①国内に伝来した**まぼろしの汝窯青磁2点**を同時公開します
- ②**室町将軍家の御殿の床飾りを**
国宝や重要文化財の絵画と磁器を組合せて**再現**します
- ③「**油滴天目の双璧**」と謳われた、国宝（大阪市立東洋陶磁美術館所蔵）と重要文化財（当館所蔵品）の油滴天目を**並べ**ます



構成

プロローグ 大阪市立東洋陶磁美術館を創ったコレクション

第1章 東洋陶磁礼賛 一名品で迎える東洋陶磁の歴史一

第1節：中国陶磁

第2節：韓国陶磁

第2章 日本文化となった東洋陶磁

第1節：九州から出土した東洋陶磁

第2節：禅宗寺院の喫茶と茶器

第3節：足利将軍家と唐物

第4節：近世日本の食の器一中国陶磁の影響

※所蔵者表記のない作品は、すべて大阪市立東洋陶磁美術館所蔵品

プロローグ： 大阪市立東洋陶磁美術館 を創ったコレクション

同館の代表的なコレクションである、**安宅コレクション**と**李秉昌コレクション**から、**収集者である、安宅英一氏と李秉昌氏の思い入れのある作品を、エピソードとともに紹介します。**

安宅英一（あたかえいいち）と廣田不狐齋（ひろたふっこさい）

大正時代中頃から、鑑賞陶器コレクションブームを牽引した古美術商の一人で、東京国立博物館にコレクションを寄贈した、**廣田松繁（号 不狐齋 1897-1973）秘蔵の「三種の神器」と呼ばれた中国陶磁の名品3点を、安宅英一（1901-1994）が、強引に譲り受けたエピソードを紹介。**



重要文化財 白磁刻花蓮花文洗
(はくじこっかれんかもんせん)
中国・定窯 北宋時代 11-12世紀



紫紅釉盆
(しこうゆうぼん)
中国・鈞窯 明時代 15世紀



五彩松下高士図面盆（「大明萬曆年製」銘）
(ごさいしょうかこうしずめんぼん
「だいみんぱんれきねんせい」めい)
中国・景德鎮窯 万曆(1573-1620)

安宅英一が
愛した名品



粉青白地象嵌条線文簋 (ふんせいしろじぞうがんじょうせんもんぼ)
韓国 朝鮮時代 15世紀



青花辰砂蓮花文壺 (せいかしんしゃれんかもんつぼ)
韓国 朝鮮時代 18世紀後半

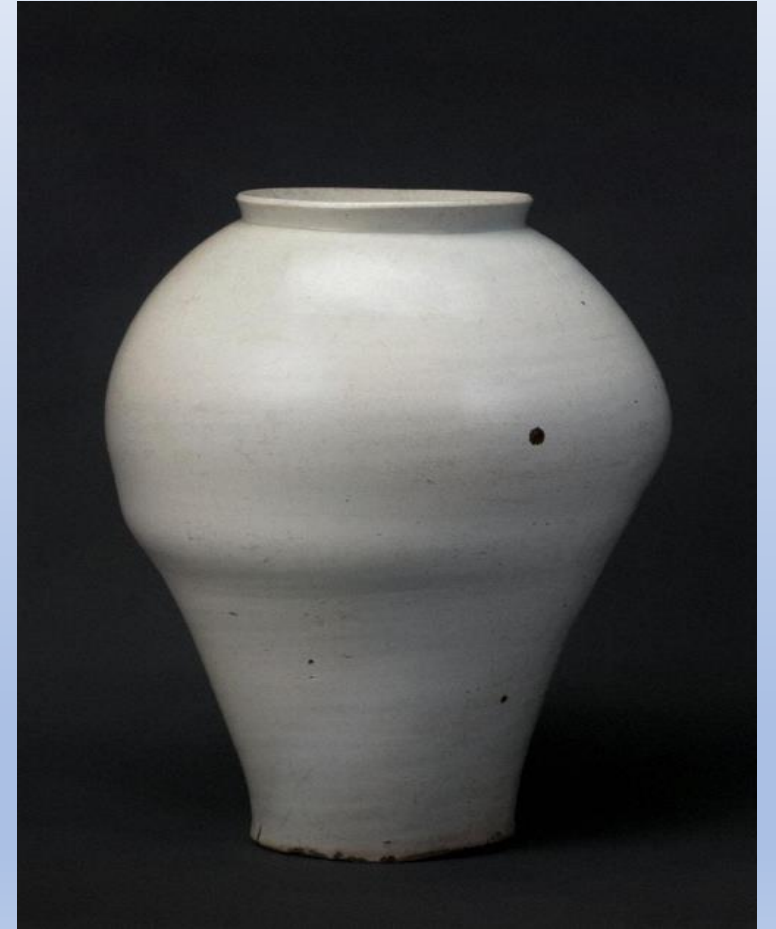
李秉昌氏が 愛した名品



青磁象嵌雲鶴文碗 (せいじぞうがんうんかくもんわん)
韓国 高麗時代 12世紀後半



鉄砂梅鳥文壺 (てっしやうめとりもんつぼ)
韓国 朝鮮時代 17世紀後半



白磁壺 (はくじつぼ)
韓国 朝鮮時代 18世紀後半

第1章： 東洋陶磁礼賛 —名品で辿る東洋陶磁の歴史—

中国陶磁、韓国陶磁の歴史を、名品の数々を通じて辿ります
中国陶磁は後漢時代から明時代まで
韓国陶磁は高麗時代から朝鮮時代まで



緑釉樓閣
(りょくゆうろうかく)
中国 後漢時代
2~3世紀



青磁陽刻菊花文輪花形碗
(せいじようこくぎっかもんりんかたわん)
韓国 高麗時代 12世紀

青磁の 誕生と展開



青磁印文四耳壺 (せいじいんもんしじこ)
中国・越窯
後漢時代 1-2世紀



重要文化財 青磁刻花牡丹唐草文瓶
(せいじこっかぼたんからくさもんびん)
中国・耀州窯 北宋時代 11-12世紀



青磁長頸瓶銘「鏝」
(せいじちょうけいへい めい かすがい)
中国・龍泉窯 南宋時代 13世紀
鴻池家伝来品

宋代五大名窯

明代皇室の所蔵品目録である『宣徳鼎彝譜』〔せんとくていいふ 宣徳3年（1428）〕に、**汝窯**、**官窯**、**哥窯**、**鈞窯**、**定窯**の名が記されており、その後に刊行された文献でも、これらの窯を**五大名窯**として挙げている。

官窯（かんよう）



青磁八角瓶（せいじはっかくへい）
中国・官窯
南宋時代 12-13世紀

哥窯（かよう）



青磁管耳瓶（せいじかんじへい）
中国・哥窯
南宋～元時代 13世紀

鈞窯（きんよう）



澱青釉紫紅斑杯（でんせいゆうしこうはんはい）
中国・鈞窯 金時代 12-13世紀

定窯（ていよう）



白磁印花花喰鳥文盤（はくじいんかはなくいどりもんばん）
中国・定窯 金時代 12-13世紀

国内現存の汝窯

汝窯は宋代五大名窯の筆頭とされる。生産期間はわずか20年ほどで、世界的にも現存数が少ない。
本展出陳の2点は、国内で伝来（20世紀以降）したことが明らかな2点。



青磁水仙盆（せいじすいせんぼん）
中国・汝窯 北宋時代 11世紀末－12世紀初頭



青磁盤（せいじばん）
中国・汝窯 北宋時代 11世紀末－12世紀初頭
東京国立博物館
川端康成旧蔵品

青花の展開



重要文化財 青花牡丹唐草文盤
(せいかぼたんからくさもんばん)
中国・景德鎮窯 元時代 14世紀



重要文化財 青花蓮池魚藻文壺
(せいかれんちぎょそうもんつぼ)
中国・景德鎮窯 元時代 14世紀



青花花果文輪花鉢 (「大明宣徳年製」銘)
(せいかかかもりんかばち 「だいみんせんとくねんせい」めい)
中国・景德鎮窯
明時代 宣徳 (1426-1435)

多岐にわたる種類の 名品の数々を公開します



黒釉刻花牡丹文梅瓶
(こくゆうこっかぼたんもんめいびん)
中国・磁州窯 北宋時代 12世紀



五彩牡丹文盤（「大明萬曆年製」銘）
(ごさいぼたんもんばん)
中国・景德鎮窯
明時代 万曆 (1573-1620)



重要文化財 法花花鳥文壺
(ほうかかちょうもんつぼ)
中国 明時代 15世紀



重要文化財 法花蓮鷺文有蓋壺
(ほうかれんろもんゆうがいこ)
中国 明時代 15-16世紀
九州国立博物館

高麗青磁

茶器・文房具・食膳具・
儀礼具など様々な種類を
通じて、韓国文化を垣間
見ることができます



重要美術品 青磁彫刻童女形水滴
(せいじちょうこくどうじょがたすいてき)
韓国 高麗時代 12世紀

青磁陰刻牡丹文碗・托
(せいじいんこくぼたんもんわん・たく)
韓国 高麗時代 12世紀



青磁輪花形鉢
(せいじりんかなりばち)
韓国 高麗時代 12世紀前半



青磁象嵌菊花文組盒
(せいじぞうがんきっかもんくみごう)
韓国 高麗時代 13世紀

高麗青磁



白磁瓜形水注・承盤
(はくじょうりがたすいちゅう・しょうばん)
韓国 高麗時代 12世紀



青磁瓜形瓶
(せいじょうりがたへい)
韓国 高麗時代 12世紀前半



青磁陰刻柳蘆水禽文浄瓶
(せいじいんこくりゅうろすいきんもんじょうへい)
韓国 高麗時代 12世紀

朝鮮陶磁



粉青鉄絵蓮池鳥魚文俵壺
(ふんせいてつえれんちちょうぎょもんひょうこ)
韓国 朝鮮時代 15世紀後半-16世紀前半



青花窓絵草花文面取壺
(せいかまどえそうかもんめんとりつぼ)
韓国 朝鮮時代 18世紀前半



鉄砂虎鷺文壺
(てっしゃとらさぎもんつぼ)
韓国 朝鮮時代 17世紀後半



第2章： 日本文化となった東洋陶磁

日本における東洋陶磁の受容について、
特に重要な4つのトピックを
大阪市立東洋陶磁美術館の所蔵品と、考古
資料や絵画とともに紹介します。

重要文化財 青磁鳳凰耳花生

(せいじほうおうみみはないけ)

中国・龍泉窯 南宋時代 13世紀

九州から出土 した東洋陶磁

憧れの唐三彩と奈良三彩



三彩貼花宝相華文水注
(さんさいちょうかほうそうげもんすいちゅう)
中国 唐時代 7-8世紀



重要文化財 三彩貼花文鏡 (観世音寺出土)
(さんさいちょうかもんふく)
中国 唐時代 8世紀
九州歴史資料館



重要文化財 奈良三彩壺
(ならさんさいつぼ)
日本 奈良時代 8世紀
九州国立博物館

九州から出土 した東洋陶磁

源氏物語にも登場する
秘色青磁



重要文化財 青磁鍍
(せいじぶく)

中国・越窯 唐時代 8世紀か
福岡・観世音寺



青磁劃花鴛鴦文水注
(せいじかっかえんおうもんすいちゅう)
中国・越窯 北宋時代 10-11世紀

九州から出土 した東洋陶磁

博多・箱崎遺跡で出土
した高麗青磁



中世の山寺
首羅山遺跡（福岡）

青磁印花夔龍文方形香炉
（せいじんかぎりゅうもんほうけいこうろ）
韓国 高麗時代 12世紀



首羅山遺跡出土品（高麗青磁）
（しゅらさんいせきしゅつどひん）
※右は陶片を基に形を再現したレプリカ
韓国 高麗時代 12世紀
久山町教育委員会



重要文化財 博多遺跡群出土高麗青磁
（はかたいせきぐんしゅつどこうらいせいじ）
韓国 高麗時代 11-14世紀
福岡市埋蔵文化財センター

禅宗寺院の 喫茶と茶器



白覆輪天目
(しろふくりんてんもく)
中国・磁州窯系 金時代 12 - 13世紀



羅漢図 陸仲淵筆
(らかんず りくちゅうえんひつ)
中国 南宋～元時代 13世紀
奈良・能満院
展示期間：8月8日～9月3日

足利将軍家と 唐物

「会所泉殿」
押板飾りの再現



国宝 秋景冬景山水図 伝徽宗筆
(しゅうけいとうけいさんすいず でんきそうひつ)
中国 南宋時代 12世紀
京都・金地院
展示期間：7月11日～8月6日



(左) 重要文化財 青磁鳳凰耳花生
(右) 青磁鳳凰耳花生
(せいじほうおうみみはないけ)
中国・龍泉窯 南宋時代 13世紀



青磁千鳥香炉
(せいじちどりこうろ)
中国・龍泉窯 南宋～元時代
12-13世紀
東京国立博物館 (廣田松繁寄贈)



足利将軍家と 唐物



国宝 油滴天目 (ゆてきてんもく)
中国 南宋時代 12-13世紀
豊臣秀次一西本願寺一北三井家一
若狭酒井家…安宅コレクション

油滴天目の双璧



重要文化財 油滴天目 (ゆてきてんもく)
中国 南宋時代 12-13世紀
九州国立博物館
古田織部一土井利勝一木下長保一松平
不昧…国



国宝 飛青磁花生
(とびせいじはないけ)
中国・龍泉窯 元時代 14世紀
鴻池家伝来品

近世日本の 食の器

— 中国陶磁の影響



三彩魚藻文盤 (さんさいぎょそうもんばん)
中国 明時代 16世紀
九州国立博物館



黄瀬戸丁子唐草文鉢
(ぎせとちょうじからくさまんはち)
日本・美濃 (窯下窯)
安土桃山時代 16世紀末 - 17世紀初頭



織部切落四方手鉢
(おりべきりおとしよほうてばち)
日本・美濃 (元屋敷窯)
安土桃山時代
17世紀初頭

近世日本の 食の器

中国陶磁の影響



五彩金欄手瓢形瓶 (ごさいきんらんでひょうけいへい)
中国・景德鎮窯 明時代 16世紀



色絵荒磯図鉢 (いろえあらいそずはち)
日本・有田 江戸時代
17世紀末 - 18世紀初頭



色絵相撲人形 (いろえすもうにんぎょう)
日本・柿右衛門窯 江戸時代
1680年代頃

イベント情報

■トークセッション

三右衛門が熱く語る「憧れの東洋陶磁」

1 4代中里太郎右衛門氏

1 4代今泉今右衛門氏（重要無形文化財保持者）

1 5代酒井田柿右衛門氏

と酒井田千明（当館主任研究員）が、大阪市立東洋陶磁美術館の名宝について熱く語ります！

- ・日時：7月29日（土）13:30～15:00（開場13:00）
- ・会場：九州国立博物館1Fミュージアムホール
- ・定員：270名
- ・事前申し込み制、聴講料無料ただし観覧券（もしくは半券）の提示が必要

■リレー講座 これであなたもやきものツウ！

第1回

日時：7月15日（土）14:00～15:30

- ・「大阪市立東洋陶磁美術館、40年の歩み」
守屋雅史氏（大阪市立東洋陶磁美術館）
- ・「日本文化となった東洋陶磁」
酒井田千明（当館主任研究員）

第2回

日時：8月12日（土）14:00～15:30

- ・「中国陶磁への誘い」
小林仁氏（大阪市立東洋陶磁美術館）
- ・「韓国陶磁への誘い」
鄭銀珍氏（大阪市立東洋陶磁美術館）

- ・会場：九州国立博物館1Fミュージアムホール
- ・定員：270名 先着順

イベント情報

■やきもののワークショップ

家族でロクロ成形に挑戦！

中村清吾氏の指導で、ロクロを体験しながら、青磁長頸瓶 銘「鋕（かすがい）」の成形に挑戦するワークショップを開催します。

※ロクロのみの体験です。釉掛け、焼成は講師および当館で行います。

- ・講師： 中村清吾氏（有田焼陶芸作家）
- ・日時： 令和5年7月16日（日）または17日（月・祝）（調整中）
第1回10:00-12:00 第2回14:00-16:00
- ・会場： 九州国立博物館1F研修室
- ・対象： お子さまが小学生以上のご家族（ただし1組2名まで）
- ・定員： 各回6組（1組2名）
- ・参加費： 調整中
- ・その他： 事前申込制（参加人数多数の場合は抽選になります）
参加日当日に観覧券（もしくは半券）の提示が必要
詳細はHPにて公開予定



青磁長頸瓶銘「鋕」
（せいじちょうけいへい めい かすがい）
中国・龍泉窯 南宋時代 13世紀
鴻池家伝来品



“やきもの”の
キラ星 九州へ

憧れの

特別展

東洋陶磁

大阪市立東洋陶磁美術館の至宝

Captivating Form, Timeless Beauty: Masterpieces from the Museum of Oriental Ceramics, Osaka

2023年7.11(火) → 9.3(日)

開館時間！午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
※毎週金・土曜日は午後8時まで夜間開館（入館は午後7時30分まで）※夜間開館の実施については、HPでご確認ください。
休館日！月曜日、7月18日（火）※ただし7月17日（月・祝）、8月14日（月）は開館 ※本展は会期中に異動を伴います。
観覧料！一般1,700円（1,600円）、高大生1,300円（1,100円）、小中生900円（700円）
※（ ）内は中学生3料金の振込期間 / 4月18日（水）～7月10日（月）
※障がい者等の方の観覧料は別表です。詳しくは入館にて関係者へお尋ねください（詳細は当館ホームページにてご確認ください）。

九州国立博物館 | 太宰府天満宮横 | 〒818-0118 福岡県太宰府市石坂4-7-8 | www.kyuhaku.jp
ホームページ 090-6642-5600（午前9時～午後8時/年中無休）

主催＝九州国立博物館・福岡県、大阪市立東洋陶磁美術館、読売新聞社
共催＝（公財）九州国立博物館振興財団 助成＝（公財）福岡文化財団 特別協力＝太宰府天満宮 後援＝太宰府市、太宰府市商工会、太宰府観光協会、日本工業会西部支部
上：重要文化財 晋高社丹唐草文盤(部分) 中国・西漢前期 元時代 14世紀 大阪市立東洋陶磁美術館(東海線三氏寄贈) 下：国宝 興善齋花生 中国・唐前期 元時代 14世紀 大阪市立東洋陶磁美術館(任友グループ寄贈/宮生マツシロ) 撮影：丸田和弘氏

☆絵画のみ展示替☆
前期：7月11日－8月6日
後期：8月8日－9月3日

陶磁器はすべて通期

☆絵画のあるコーナー以外
すべて撮影可